

予 算 要 求 資 料

令和4年度当初予算 支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 国際園芸アカデミー運営機能強化推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き係 電話番号：058-272-1111 (内 2866)

E-mail： c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 8,320 千円 (前年度予算額：8,220 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	8,220	0	0	0	0	0	0	0	8,220
要求額	8,320	0	0	0	0	0	0	0	8,320
決定額	8,320	210	0	0	0	0	0	0	8,110

2 要求内容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

- ・「農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」において、本学が独自に取り組むべき課題として、教員及び学生の人材育成のため事業を実施した。
- ・「国際園芸アカデミー有識者会議報告書」において、教員のさらなる指導力向上や、学生の経営感覚の向上、社会性と職業意識を身につけた即戦力となる人材育成など、新たな教育改革について提言を受けるとともに、清流の国ぎふ花き振興計画にも教育改革を位置付けており、対応が必要。

(2) 事業内容

- ①花き関連企業以外の異業種を含めた企業等へ教員を派遣し、教員と各種業界とのネットワークを構築
- ②学生が経営手法等を習得するため、経営感覚の育成に資するカリキュラムを構築(起業家・経営者等による講義 等)し、学びの機会を創出
- ③自治体との連携による公園管理事業への参画やイベント出展等の実践的な取り組みの強化
- ④新型コロナウイルス感染症の影響により中断していた海外の園芸協会等民間団体や大学との連携を再開し、相互交流による技術・人材の育成

(3) 県負担・補助率の考え方

県立学校に関わる事項であり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

県立の農業大学校・森林文化アカデミー・情報科学芸術大学

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
人件費	300	講師報酬
旅費	1,091	業務旅費、費用弁償
需用費	1,917	実習用県産花き等
役務費	44	通信運搬費
委託料	1,026	海外の園芸協会・大学等連携先調査費
使用料	42	携帯電話・データ通信機器レンタル
工事請負費	3,900	温室施設の改修（ドライミスト導入）
合計	8,320	

決定額の考え方

財源については、地方創生推進交付金を充当します。

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・ 県立国際園芸アカデミー運営計画 (令和2年度～6年度)
- ・ 県立国際園芸アカデミー有識者会議報告書 (令和3年度)
- ・ 清流の国ぎふ花き振興計画 (令和3年度～7年度)

(2) 国・他県の状況

兵庫県立淡路景観園芸学校（岐阜県以外の自治体立園芸学校）

(3) 後年度の財政負担

新規事業分については、地方創生推進交付金を充当予定し、その他事業については、県立学校に関わる事項であり、県が負担することが妥当である。

(4) 事業主体及びその妥当性

県が設置する学校であり、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調書（県単独補助金除く）

<input checked="" type="checkbox"/> 新規要求事業
<input type="checkbox"/> 継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

- ・ぎふ花と緑の振興コンソーシアムを中心に積極的な連携事業を行うことにより、花きの需要拡大を図り、県内の花と緑の産業の活性化に寄与する。
- ・清流の国ぎふ花と緑の振興センターが運営する担い手育成支援施設において、県内花き生産者の能力向上を図り、経営安定を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R6)	達成率
						達成率
受験者数	18人	18人	23人	26人	30人	60%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>企業経営者等の元で企業理念や経営について学ぶ企業研修や、職業教育について学ぶ研修（オンライン）を通じて教員の指導力向上を図った。</p> <p>授業や実習の場で県産花きを活用することで業界のニーズを間近で把握する機会をつくり、県内花き業界への理解を深めた。</p>
令和3年度	<p style="color: red;">令和5年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>
令和4年度	<p style="color: red;">令和6年度当初予算にて追加</p> <hr/> <p>指標① 目標：__ 実績：__ 達成率：__%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性（社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断） <small>3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>経営感覚や社会性を身につけ業界で活躍できる人材を育成するには、学校と業界が十分に連携することが極めて重要である。</p>
<p>・ 事業の有効性（指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか） <small>3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>教員の指導力向上研修の実施、ドライミスト導入による温室環境改善などにより教育の質の向上が図られており、学校の魅力が向上した。</p>
<p>・ 事業の効率性（事業の実施方法の効率化は図られているか） <small>2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>教員の指導力の向上、温室環境の改善等により効率的かつ効果的なカリキュラムを編成するとともに、時間外勤務の削減につながった。</p>

(今後の課題)

<p>・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、海外団体との十分な連携が図られていないため、継続実施する必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 業界が求める、経営感覚に優れた即戦力となる人材育成を図るなど学校の魅力向上に繋げる。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント又は事業名及び所管課</p>	【○○課】
<p>組み合わせて実施する理由や期待する効果 など</p>	